

# 蜂(ハチ)はなぜ腰が細いのでしょうか

## 1. 蜂の腰

蜂は「ハバチ」、「寄生バチ」と「狩バチ」の三つに大きく分けられます。

○「ハバチ」は腰の部分がくびれず、ずん胴になっています。幼虫は植物食で、葉、材、茎を食べます。時々見かけられるものには、ヒラアシハバチ、チュウレンジバチなどです。

○「寄生バチ」は、ハチの中でも最も種類が多い。小さいものでは0.2mmの微小種から、大型の甲虫に寄生するツチバチの一種では30mmを超える種もあります。小さいのであまり見かけませんが、モンシロチョウやアゲハに寄生するものとしては、「キアシトコバチ」や「アオムシコバチ」などがあります。変わったところでは、イラガの卵に寄生するあの色の綺麗な「イラガセイボウ」などもこの仲間です。

○「狩バチ」は肉食性のハチで、「ベッコウバチ」、「アシナガバチ」、「スズメバチ」などおなじみのものが多い。



さて、ハチというときすぐ胸と腹との間の細いくびれのある「アシナガバチ」や「スズメバチ」を思い出しますね。このくびれも、原始的な「ハバチ」や「キバチ」ではずん胴形をしています。

これらの原始的なハチから、

○昆虫やクモなどを餌として利用する「寄生バチ」

○生きた獲物を捕らえる「狩バチ」

に進化してきたといわれています。

「寄生バチ」や「狩バチ」にとって、相手の体内に卵を送り込む産卵管や相手を倒すための毒針の機動性を高めるためには、自由自在に曲げることが出来る腹部が必要になります。そこで、細い柄によって腹部と胸部を連結することによって、産卵管や毒針のついている腹端は柔軟性を備え、的確に相手の急所に届くようになっています。

また、親バチが獲物を刺し殺してしまったのでは、獲物はすぐに腐ってしまい、幼虫のえさとしての意味がなくなってしまいます。そこで、獲物の神経の中枢に毒針を打ち込んで、しびれさせ、動けないようにしてしまいます。

そのため、「ベッコウバチ」の獲物である「オニグモ」を取り上げて、このクモの口元に餌を与えてやると1ヶ月以上も生き続けるそうです。

「寄生バチ」や「狩バチ」の武器は強い毒力ではなく、むしろ急所を一突きする特殊技能のようです。つまり、ハチ特有のウエストの細さは、そのための進化と適応の結果とみなされています。

## 2. 虻(アブ)の擬態

池河内湿原の周回木道上で、シロスジナガハナアブを見つけました(写真1.)。このアブの腰のくびれをよく見てください。寸胴なのにハチのように腰がくびれて見えませんか。つまり、腰の両脇の黄色い部分が透けて見え、真ん中の黒く細い部分が強調されているようにも見えますね。

アブの仲間には「ハチの腰のくびれ」を擬態しているものも多く見られます。私には腰がくびれているようには見えませんが、鳥から見れば「腰のくびれはハチ」と判断するのもかも知れませんね。

腰のくびれも形態的にくびれさせるのは大変でしょうが、くびれ「紋」であれば比較的手軽に進化できるのでしょうか？



写真1. シロスジナガハナアブ(池河内湿原:2005.6.22)

写真2. はヒラタアブですが、よく見ると腰にくびれたように見える紋がありま

す。ハチのように「毒針で刺す」という警告すべき特徴を持っていないにも拘らず、警告色で捕食者を威嚇する特徴を持ったものを「ベイツ型」擬態といますが、上手く出来ていますね。



写真 2. ヒラタアブ(池河内湿原:2002.6)

---